

# 令和4年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山中学校  
校長 細見博文

## 1 学校教育目標

基礎力・思考力・実践力をもち、支えあい学びあう生徒の育成

## 2 今年度の重点目標

- (1) 授業のユニバーサル化、ICT 利活用の充実を図るとともに、授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)について、目標と授業の流れを生徒と共有し、学びを実感できる振り返りを進める。
- (2) いじめ、不登校等に対して、関係機関と連携した組織的な生徒指導・教育相談を充実するとともに、コロナ禍に対応し、対話的な学習指導や体験的な集団活動により人間関係形成力を育成する。
- (3) 生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会を核として、夢のある講演、やりがいのあるボランティア活動、やすらぎのある安全点検を進め、生徒の自治能力や社会参画する力を育成する。
- (4) ICT 環境を活用した校務の効率化、バック・キャスト(ゴールを精選し、逆算して計画)による教育活動の改善、記録簿についての面談によるタイムマネジメント意識向上を図る中で業務改善を進める。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	・学校は、授業スタンダードに基づいた授業をしている。また、Output（書く、表現する、修正する）を重視する授業改善に努めている。	B	対話による集団思考を生徒は肯定的にとらえて定着しているが、次の学習につながる振り返りや、予習をはじめとする家庭学習のあり方について、改善を進めることが必要である。
	・授業のユニバーサルデザイン化を図り、豊かな人間関係づくり等の育成に努めている。	A	職員会議毎にミニ研修を行い、視覚支援、人的支援等の授業のユニバーサル化が進んだ。また、ICTを日常的に活用し、主体的な学び、協働的な学びを高めることができた。
生徒指導	・不登校、問題行動等について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。	B	警察、福祉、医療と連携して生徒指導を進めた。ケース会議を行い、実践事例を他の生徒の指導にいかせた。情報機器について市内生徒会交流会で検討することができた。
	・いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、未然防止、早期発見・対応、早期解決をしている。	A	いじめアンケート、QUテスト、学年担任制による教育相談等により、多面的指導・支援を進め、いじめ解消率100%、不登校生徒の別室登校など状況改善が進んだ。
地域ととも学校づくり	・学校だより等の発行、ホームページの更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。	A	毎日のホームページ更新や毎月の学校便りの発行など、生徒にかかる学校の情報を、適宜発信することができた。
	・学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や安全点検・学習支援等を積極的に行っている。	A	四つの力委員会を実施し、あいさつ、交通安全、災害避難について検討できた。ICTを中心に外部人材を活用した教育活動を進めることができた。
業務改善	・「職員の申し合わせ事項」（特にICTによる業務改善を含む）を意識して職務を行っている。	A	外部講師による個別の教職員ICT活用能力向上研修や、ICT活用による出欠管理、生徒掲示板による連絡を進めることができた。
	・あなたは、木曜日は定時退庁の日として、18：30までに退庁している。	B	部活動の朝練習の廃止により教員、生徒とも朝の時間帯にゆとりもつことができた。生徒指導の緊急対応のため定時退勤できない場合がある。タイムマネジメントをさらに進めることが必要である。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用が進んでいる。特に若い先生のICTへの前向きな姿勢を感じており、授業の効率化という点で十分な活用ができています。動画製作、プログラミング、AIの活用、外部とのコミュニケーションなどを従来の授業に組み込み、さらなる主体的な学びにつなげてほしい。</li> <li>人的環境、教室環境、授業のユニバーサル化の推進がすばらしく、生徒たちがいきいきと学校生活を過ごしている。</li> <li>四つの力委員会において、生徒たちの意見をまとめる力、発表する力がすばらしく感動した。地域とのつながりについて参加できる場が少ないように思われるので自治会との連携を増していく必要がある。</li> </ul>
---

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で計画通り教育が進まなかったと思うが、その中で、学習指導、生徒指導の成果が出せている。校舎内のどこを見てもきれいに掃除ができていて気持ちがよい。</li> <li>学校生活については、生徒・先生とも高評価で、目標に向けて頑張っていますが、家庭については生徒、保護者とも改善点が多いように思う。</li> <li>郷土愛の醸成を子どもたちのキャリア教育につなげることが必要である。</li> </ul>
---

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT化が進み、生徒たちにとっても環境改善がなされてきたと思うが、今後、個人差への対応をさらに進める必要がある。</li> <li>家庭学習においてもICT環境の整備が必要である。クラスルーム（アプリ）での課題提出、先生への質問、生徒同士で授業に関するコミュニケーションに慣れることで、生徒にとって「勉強しやすい環境」をつくっていきける。高等学校はタブレットを持ち帰りが前提になっているので、市教育委員会とも連携し、家庭学習での活用を検討する必要がある。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの解消率100%は評価でき、落ち着いた雰囲気である。生徒による校則の改革が進んでいるのはよい傾向である。大いに生徒の自主性を尊重してほしい。</li> <li>生徒会からの提案で、市内生徒会交流会においてスマホの使い方を検討したことに感心した。</li> <li>コロナ禍の中で行事の制限など苦勞をしてきているが、一方で困難を乗り越える力がついてきている。コロナ禍の影響で休む子が増えたり、ゲームの時間が増えたりしているが、保護者が自覚をもって子育てをすることが重要である。</li> <li>ネット社会になり、表には出ないいじめ、差別を未然に防ぐのは難しいことだが、生徒のアンケート等にて早期発見できるようになればと考える。</li> <li>自己肯定感の低さが不登校や問題行動につながっている可能性が考えられるため、キャリア教育などで自己肯定感を高める授業の構築があるとよい。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域であいさつや会釈がよくできるようになった。四つの力委員会が出た意見を学校生活全体へフィードバックさせた成果であると考えられる。</li> <li>地域人材によるキャリア教育を担当した。全体的に自分からしゃべる生徒が多く、自分の意見をしっかり話せていた。</li> <li>生徒の教育活動等が新聞などで取り上げられ、地域の人々の目に触れることはよい。地域との密着度もあがり、地域の一員としての自覚をもたせることにつながる。</li> <li>中学生はどうしても高校・大学やその先を見据えた教育になると思うが、地元丹波篠山の良さや特色を生徒たちで話し合う教育を取り入れてほしい。地域の大人との対話はICTの活用で実現が容易になると思う。</li> <li><b>【学校運営協議会について】</b></li> <li>来年度以降、生徒から、授業にきてほしい大人・企業のリクエストを聞いていきたい。</li> <li>コロナ禍で自治会の行事が少なくなってきた。みんなでまとまるという連帯感を学生生活で大切にしてほしい。コロナ後はそういう場を復活させていきたい。</li> </ul>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善はICTの活用が要である。スケジュール管理、テストの再活用、課題提出の自己採点等、人がやらなくてもよい作業をコンピュータにまかせる意識が重要である。</li> <li>定時退勤については中々難しいと思うが週1から徐々に広げて将来的には定時退庁になることを望んでいる。</li> <li>良い人材に先生になってほしい。授業に教員が集中できる環境であってほしい。部活動の地域移行もその一つとして注視している。</li> </ul>